

内灘町

「恋人の聖地」に彩り

大橋周辺 新年度から花植栽

内灘町は、内灘大橋そば河北潟放水路のり面を花でいっぱいにする事業に乗り出す方針を固めた。認定を受ける「恋人の聖地」の発信や、二〇一四年度の北陸新幹線開業をにらんだ観光名所づくりに取り組む。新年度当初予算案に試験植栽の位置付けで百万円を盛り込む予定だ。（山森保）

のり面は高さ五十メートルの放水路の両岸に広がる。河北潟から防潮水門を挟んで日本海につながる延長約八百メートルのため、現在の崩落防止のために植栽が施され

ているが、かつて一部町民がハマナスを植えていたこともあった。計画では、内灘大橋のたもとにある道の駅対岸ののり面約百平方メートルに、ハマナス、コスモス、ハマキク、カザニアなど五種類から三種類ほどを選定し、施肥した上で植栽する。一帯は浜風が強く、ど

の花苗が適しているか調べ、二〇一一年度からの本格着手を目指す。

内灘町は、昨年四月に内灘海岸と内灘大橋がNPO法人地域活性化支援センター（静岡市）の「恋人の聖地」認定を受けた。内灘海岸では住民らが竹垣を施工し、砂丘復活に取り組んでいる。内灘大橋は本年度、多色照明設備を改修したほか、道の駅にあずまやなどを建設。新年度には張り出しのテラスと、恋人の聖地モニュメントの設置が計画されている。

花の名所づくりが計画されている河北潟放水路のり面＝内灘町大根布で

同町は、植栽には町民にも参加してもらい、将来的には両岸を花で埋めたい考え。実現すれば圧倒的なスケールを持った花の名

所になる。内灘大橋のり面は高さ五十メートル、延長約八百メートル。崩落防止のために植栽が施されているが、かつて一部町民がハマナスを植えていたこともあった。計画では、内灘大橋のたもとにある道の駅対岸ののり面約百平方メートルに、ハマナス、コスモス、ハマキク、カザニアなど五種類から三種類ほどを選定し、施肥した上で植栽する。一帯は浜風が強く、ど